

福士貞吉先生の 思い出

塩 田 弘 行

て、日本農学賞、日本学士院賞、
勲二等瑞宝章が授与されています。

先生の絶筆となった「原始林」
の詠草より5首を抄出します。

・紅燈の巷に緑酒酌むことを吾好
まねば友に疎まれぬ

先生と短歌

恩師福士先生が、北海道でトップクラスの短歌誌「原始林」の平成3年3月号に、新会員として先生自身、直接申込まれたのを知った時は驚きました。96歳と言う高齢にも拘らず、詠草投稿される迫力にはただただ感銘しました。

ところが、その先生が9月4日に突然亡くなられたことを知り、暗然とした心情で落ちこんでしまい、満足にお悔みの言葉も出ませんでした。結局、先生は、「原始林」同人として4月号より10月号までの短期間、優れた詠草欄「はるにれ」2回の入集を含め、詠草44首が掲載されました。先生は古くからとくに結社には入られていなかったようですが、短歌を詠まれていたのです。

平成2年7月刊行された250余頁にもなる「落葉わが自叙伝」、これは先生の遺文集となっていました。この本の中に「平凡人の歌」として「修道院にて」「思い出」「旅の歌」「病院にて」などに区分されて、1915年以来、近年までの詠草より自選した220余首が掲載されております。

先生は、温厚高潔、学者としての道を一筋に進まれた北海道大学名誉教授です。農学部農業生物学科で植物病理学を教え、一方植物ウイルス病に関してなされた多くの研究業績は、国内はもちろん国際的にも高く評価され

- ・いつはりの世を厭ふゆゑに交はりを広くも
とめず独り歩めり
- ・沙羅双樹に似てはかなきかたそがれに夏椿
の花白く地に落つ
- ・あぢさゐの花語るらく人の世の生は偶然死
は必然と
- ・閉ざされし扉のかげにつゆくさの青いろに
咲くあぢさゐの花

先生と馬鈴薯

北大農学部植物病理学教室で植物ウイルス病学を学び、拙い英文の卒業論文を赤ペンで各所に添削加筆していただいたことなどが、福士先生との出会いでした。

昭和15年、台湾に職を得て赴任し、敗戦で台湾総督府農業試験所より引揚げてふる里札幌に帰り、先生のご配慮で当時設立された農林省馬鈴薯原原種農場に勤めることになったのが、私の馬鈴薯により深く関わることになった起点です。

いま私の手許に、福士先生の書かれた「馬鈴薯の増産と萎縮病の予防法」と言う46頁余の小冊子があります。昭和21年11月刊行、定価4円のものでした。

敗戦により国土の4割を失い、狭い国内で約8,000万の人口を養わなければならなかったわが国では食糧の増産が必要で、馬鈴薯の生産増強もその一つでした。

ところが、当時は病気に罹っている種薯を

バレイシヨ増収一〇〇〇問答

■三百回余りの講演で、いも作従事者からいたいた千四百余の質問を整理し、これに回答。基本から植付け、収穫・防除までを解説し、厳しさが加わる現代農家に大きな指針を示す好著。元北大助教授・吉田稔著 定価七〇〇円 送料二五〇円

清薯源流の砦

■現在の種苗管理センターのいも作関係は、昭和二二年に創設された「馬鈴しょ原種農場」がその出発である。各農場の歴史と現況の報告書。いも類振興会編・定価七〇〇円 送料二五〇円

21世紀に向けてのいも作り

■生涯を北海道のバレイシヨ作に投入した著者快心の著作。その視野は需要者の品質志向から国際競争力まで、イモ作従事者の今後の指針を示す。吉田稔著 定価六〇〇円 送料二五〇円

アンデスから食卓まで

■ジャガイモのふるさとアンデスから出発し、その料理法や品種の特性、栽培から食卓への供給までを、オールカラーで紹介。田中智著 全改訂 定価五八〇円 送料一七五円

熱帯アジアの馬鈴薯生産

■東南アジアの馬鈴しょ生産の実態を、各国のレポートから翻訳した貴重な資料。わが国馬鈴しょ作に大きな示唆を与える。秋元喜弘著 定価八〇〇円 送料二五〇円

甘しょ・ばれいしょ・おいも全書

■斯界の権威による今日のおいも百科。
香川綾 監修 定価三五〇〇円 送料四〇〇円

植え付けていることが多かったため、生産が極端に低かったのです。増産のためには無病健全な種薯生産が必要で、今では常識になっている事なのですが当時としてはまずその問題となっている萎縮病（ウイルス病）の予防なのです。植物ウイルス病の分野では、国内ではもちろん海外に於ても草分け的な研究者であった先生は、専門的な立場で採種体系の必要性を、各地で機会あるごとに「種薯は必ず採種圃から」と強調されていました。

昭和22年に、GHQの勧告により、農林省馬鈴薯原原種農場が、北海道4ヶ所、本州3ヶ所に創設されましたが、先生は北海道の用地選定委員の1人として活躍されましたし、さらに昭和26年よりは農林省植物防疫官による馬鈴薯原種圃・採種圃の圃場検査も実施され、新品種の育成、栽培管理技術の進歩推進などもあり、現在の飛躍的な生産向上が実現したのです。

前述の小冊子は10,000部印刷されたのですが、採種圃の必要性が判りやすく書かれていて、馬鈴薯生産者のみならず関係者、消費者にも種薯に対する認識を一層深めて、完売された貴重なものであったことを忘れることが出来ません。

いも類振興情報 第33号

平成4年10月15日発行

発 行 所	財団法人 いも類振興会 東京都港区赤坂6-10-41 ウィップ赤坂303号室 電 話 03-3588-1040 振替・東京3-110152
印 刷 所	交通印刷株式会社